

令和5年9月15日（金曜日）

経済観光委員会

第4委員会室

出席委員

山口 悟、白井義一、前川藤枝、駒田かすみ、
井川一善、井上太良、下林崇史、嶋谷秀樹、
西村しのぶ

開会

9時55分

農林水産環境局

9時55分

職員紹介

前回の委員長報告に対する回答

・市川美化センターについて、新美化センターが新設されるまでの間、適正かつ安定した処理機能が発揮し続けられるよう計画的に取り組まれないこと。

また、新美化センターについて、人口減少社会によるごみ発生量の減少やごみ減量化の目標を踏まえて、しっかりと施設整備計画の策定に努められたいことについて

ごみ焼却施設の運転に際し、日々変化するごみ量や焼却の状態に応じた適切な運転管理を引き続き行っていく。

また、ごみ焼却施設の整備に際しては、毎年実施する必要がある触媒反応塔定期整備工事のほか、中長期的に必要な整備の計画をベースに、日々の運転から得られる情報などに注視しつつ、効果的な整備計画の立案に努めることで、適正かつ安定した処理の継続に取り組んでいく。

・農水産物のブランド化推進事業について、生産者の働く意欲を高めるためにも、姫路産であることがイメージできるような効果的なネーミングをつけるなど、創意工夫を凝らしながら認知度の向上に向けてしっかりと取り組まれないことについて

本市では、令和4年度より姫路市で収穫される農水産物を「旬の時期」に「旬の食材」として紹介することで認知度向上に取り組んでいる。

具体的には、「網干メロン」や「安富のゆず」など、特定の品目に特化した直売フェアをそれぞれの旬の時期に開催するとともに、生産者のこだわりや安全性を訴求する動画を作成し、ひめじ動画チャンネル（ユーチューブ）で配信している。

動画チャンネルにおいては、アンケート形式で意見

を募集しており、寄せられた意見なども参考にしながら、引き続き姫路産としての認知度向上に取り組んでいく。

議案説明

- ・議案第125号 契約の締結について（坊勢漁港（西ノ浦地区）西5号防波堤耐震改良基礎工事請負契約の締結）
- ・議案第126号 契約の締結について（旧姫路市中央卸売市場解体撤去工事請負契約の締結）

報告事項説明

- ・事業見直しについて
- ・令和5年度使用料・手数料等の見直しについて（農林水産環境局）
- ・新美化センター建設候補地選定の進捗状況について
- ・鳥獣被害防止対策の現状等について

質疑・質問

10時30分

（質問）

新美化センターの建築に当たり、今後実施される住民説明会の場合では、2010年にエコパークあぼしで発生した爆発事故の話題が出るのではないかと思います。しっかりと備えていく必要があるのではないかと。

（答弁）

新美化センターは、安全性が非常に大切と考えている。

エコパークあぼしでは、学識経験者によるガスの排出状況調査を継続して実施しており、事故当時とは比べ物にならないぐらいの知見を得ている。

建設候補地が決定すれば、地歴調査等を実施し万全を期していきたい。

（質問）

高砂市でイノシシが出没しており、隣接する形的形町でも確認されている。

イノシシの出没対策については、NHKでも取り上げられる予定であり全国的に注目を浴びている。

侵入防止柵に係る国の補助金は、農作物の被害が発生していなければ利用できないようであるが、今後の対策についてどのように考えているのか。

（答弁）

社会的な関心や市民の危機意識も高まっているこ

とは感じており、現場を確認している担当者からもそのような声は聞いている。

国の補助制度を利用せず、本市単独の補助制度を設ける場合、制度設計を十分検討する必要がある。

そのような検討を行っている間にもイノシシによる被害が発生するおそれがあるため、現在の体制で可能な方策を検討しながら危機感を持って、対応していきたいと考えている。

また、関係市町と情報交換しながら取り組んでいきたい。

(質問)

散歩やウォーキング中の市民が多い午後9時台にもイノシシが出没している。

取り返しのつかない事態が起きないように、しっかりと取り組まれないと思うがどうか。

(答弁)

関係部局と連携を取りながら、地域や学校等へ出沒が多いエリア等の情報伝達などを行っているが、引き続き周知・啓発にも力を入れていきたい。

(質問)

旧姫路市中央卸売市場解体撤去工事は19億3,600万円と大規模なものである。

事業者からの提案も含めた総合評価落札方式で評価しているのか。

(答弁)

そのとおりである。

総合評価落札方式にて、価格以外の要素である技術や実績等も数値化し、総合的な評価値が最も高い事業者を選定している。

(質問)

環境に配慮した提案となっているのか。

(答弁)

国土交通省が基準を制定している建築物解体工事共通仕様書の環境保全に十分配慮した工法等であるかを確認し、指導を行うこととしている。

(質問)

近隣の住民にはどのような対応を行うのか。

(答弁)

工事着手までに近隣住民の意見をしっかりと聞くよう、仕様書の中に住民説明会について記載している。

(要望)

古い施設なのでいろいろ環境面での配慮が必要になると思う。

しっかりと業者を指導しながら取り組まれない。

(質問)

猟友会の年齢構成を見ると、70歳以上が多く、令和4年から令和5年にかけてさらに増加している。

どのように考えているのか。

(答弁)

令和5年は39歳以下が41人、40歳から69歳が147人、70歳以上が121人となっている。令和4年から70歳以上の構成人数が10人ほど増えているが、39歳以下も38人から41人に増えている。

猟友会の活動は1人ではできず、本業の合間に活動している人もおり、活動回数が限られている。現在は、国の補助を活用しているが、今後も活動支援に取り組んでいきたい。

(質問)

姫路市新美化センター建設候補地選定委員会の委員は、本市理事級職員等で構成されているが、施設建設における有識者から助言を得られるような体制は整えているのか。

(答弁)

建設候補地の選定については、学識経験者等で構成された姫路市環境審議会において決定された選定方法に基づいて、行政としての審議を行っている。

施設建設については、令和6年度に施設整備基本計画を検討するため、廃棄物処理施設に精通した有識者を交えた新たな審議会の設置準備を進めているところである。

(質問)

中央卸売市場用地や南部学校給食センター用地では様々な問題が生じたが、新美化センターにおいても何らかの問題が生じる可能性はあると思われる。

そのような問題が生じた場合には、開かれた場で議論し、意思決定を行ってもらいたいと思うがどうか。

(答弁)

新美化センターの選定事業では、選定過程の透明性をいかに保つかという点を重視している。

そのため、関係者に不利益が生じるおそれのある候補地の場所以外、選定委員会での意見、資料等は全て議会で説明し、ホームページで公開している。

今後、様々な事案があった際にも意思決定の透明性には、しっかりと配慮していきたい。

(質問)

事業見直しについて、これまでに4,434台の助成を行ってきた家庭用生ごみ処理機助成は、販売価格の低下などで助成件数が減っているとのことである。

どの程度減っているのか。

(答弁)

助成開始当初の平成14年度は約1,300台であったものが、直近の令和4年度は約50台となっている。

当時は、生ごみ処理機がまだ普及していなかったもので、利用者のほとんどは4万円以上の高価なものを購入していたが、現在は安価なものが流通しており、同制度の利用件数も減少している。

(質問)

廃止となれば、駆け込み需要が生じるおそれがある。

どのような対応を考えているのか。

(答弁)

現在、見直しを検討している段階で廃止と決定しているわけではない。

廃止が決定すれば、具体的な対応を考えていきたい。

(要望)

高性能の生ごみ処理機も発売されており、今から欲しいという人が出てくる可能性があるため、柔軟に対応してもらいたい。

(質問)

テレビ・ラジオを活用した美化啓発の事業見直しについて、代替するものを検討しているのか。

(答弁)

情報発信としてテレビ・ラジオに傾倒していることに対する全庁的な見直しに加え、ごみの情報は必要ときに欲しいものであり、即時性のある媒体が必要と考えている。

(質問)

若年層の情報収集媒体が変化していると資料に記載があるが、若年層にはユーチューブやティックトックが身近と思うがどうか。

(答弁)

全ての世代に関係がある分野なので、委員の意見も踏まえ十分に検討したい。

(質問)

ひめじプラスのごみに関する機能はよく利用されていると思うが、今後アプリをひめパスに統合していくことになれば、この機能がどうなるのかが気になっている。

また、ひめパスに統合するのならば、ごみ拾い活動のポイント化は考えていないのか。

(答弁)

ポイント化でごみ拾いのモチベーションが上がることはあるが、アプリ利用者の一部だけにポイントを付与することに課題がある。

他都市では、ごみ拾い活動をSNSに掲載し、「いいね」がつくことにより、モチベーションを上げてもらおうという取組を行っているところがあり、本市も環境フェスティバルにおいて、環境活動を行っている人にSNSに投稿してもらい、景品を提供するという取組を実施したこともあるが、参加状況は芳しくなかった。

(要望)

テレビ・ラジオは視聴者等の減少が見られ、必要ときに見ることができるよう情報を提供していくことが時代に即していると思う。アプリとの連携をしっかりと行ってもらいたい。

(質問)

鳥獣被害防止対策については、森林環境の変化や個体数の増加など様々な要因があると思うが、市街地に出てきたものを捕獲するだけでなく、その手前での対策も考えていくことが必要ではないのか。

(答弁)

現在、住宅地と山林の境界が変化してきており、荒れた田畑が放置されていれば、野生動物はそこまで出没するようになる。

総合的な対策として、動物と人間の住環境を元どおりに戻していく必要があると考えている。

なお、鳥獣被害防止対策としては、国庫補助を活用した侵入防止柵の設置を進めているが、広大な山林全てに対応はできないため、被害が多い箇所を優先している。

野生動物は餌を探して動くので、柵を設置したらその隣の地域に出没するという状況の繰り返しであるが、実施箇所の被害は減っているため、捕獲と侵入防止の両面で実施している。

(質問)

捕獲した鹿やイノシシは、ジビエとしてどの程度利用されているのか。

また、アライグマやヌートリアは、戦時中に防寒具として利用するために入ってきたと思う。

毛皮を何かに利用していないのか。

(答弁)

ジビエとして使用するには、食肉処理業の許可を受けた施設で処理する必要があるため、捕獲した鹿は、猟友会姫路支部が運営している夢咲鹿工房に搬入され、大半はペットフードに加工されている。

残りの部分は、過去に革の提供を求められたこともあったようだが、基本的にはごみとして処理されている。

また、アライグマやヌートリア等の特定外来生物は、即殺処分し焼却している。

(要望)

もったいないと思いジビエ肉を購入しているが、なかなか消費し切れないところがある。おいしいジビエ料理をPRすることなども検討してもらいたい。

(質問)

新美化センター建設候補地について、候補地決定後に当該地域からの反対等により事業が進展しない場合に備え、代替候補地の選定を行うような考えはあるのか。

(答弁)

ブラックボックスの中で選定したものではなく、数十か所の候補地から一次選定で法的・物理的制約条件からふさわしくない候補地を除外し、次の二次選定では、絶対評価による選定評価得点が7割以上である候補地を選定し、最終段階となる三次選定において、相対評価を用いて優先候補地を選定するといった手順で進めている。

それぞれの選定過程において、しっかりと審議を尽くしていると考えており、決定した候補地が本市にとっての最適地であるとの強い思いを持って、全力で交渉に当たっていきたくと考えている。

(質問)

地域の合意形成を図る過程において、道路整備等の地域の要望を聴取していく際には、市の対応が後の監査で指摘されないようしっかりと交渉していく必要

がある。当初の対応をしっかりと行わなければ、話がこじれてしまうことになる。現場交渉にたけた人を選出すべきと考えるがどうか。

(答弁)

チームでしっかりと対応したいと考えており、可能な限り地域とは心を通わせて交渉したい。

(質問)

施設利用者や施設運営者の意見を聞いて、出てきた課題を踏まえて検討していくべきと思うがどうか。

(答弁)

エコパークあぼしでは、整備方針がある程度固まった段階で現場の職員の意見聴取を行った記憶がある。

個別具体的な要望も多く、施設整備側にはかなり負担があると考えている。

どのタイミングで、どのような人の意見を聞くかはまた判断したい。

(質問)

下水道延長が長くなる候補地において、浄化槽を設置してはどうかとの選定委員会の指摘事項に対して、処理水の放流先の確保が容易ではないと回答している。

現在の浄化槽は川よりきれいな水を放流することが可能なので、もう少し丁寧な議論をしてもらいたかったと思うがどうか。

(答弁)

同条件で候補地を比較するため浄化槽は除外したが、現地で浄化槽のほうが経済性が高いと判断できれば、浄化槽で対応したいと考えている。

(質問)

ごみの焼却施設となると、臭気や煙の問題等が出てくると思う。

国内でも指折りの施設である、エコパークあぼしの能力や現在のごみ処理施設の性能を広報ひめじ等でもっとアピールすることで、住民の理解を得やすくなるのではないのか。

(答弁)

高性能な施設であることは、しっかりと情報発信していきたい。

加えて、エコパークあぼしは、日常の散歩コースや花火大会の会場として、地域住民に親しまれる施設となっており、そのような情報も発信していきたい。

(質問)

ごみの分別について、毎年配布している一般家庭用クリーンカレンダーに分別方法が記載されているが、多くの方が分別に困るものをピックアップして動画で紹介するなど分別の理解度を向上させる取組は考えていないのか。

(答弁)

ごみの分別については多くの問合せを受けており、カレンダーやアプリ等の工夫を行っていく必要があると考えている。

また現在は、認定こども園でごみの分別や積み込みなどの体験学習や食品ロス防止のフードドライブを合わせたイベントを実施しており、次世代に向けた啓発に力を入れている。

(質問)

鹿やイノシシによる家庭菜園への被害防止対策を市が行うことは難しい部分があると思うが、市街地出没による人的被害を考えると、出没を抑えることが必要であると思う。

侵入防止柵の整備については、国の補助金だけでなく、市独自の取組が必要だと思うがどうか。

(答弁)

農業等に係る被害防止を図る中で、その対策により他の被害についても防ぐことができればと考えている。

また、他市町と隣接する地域では、広域的な観点から隣接市町と連携した対策が取れるように検討していきたい。

(質問)

播磨灘ではエイが相当増え、アサリ等が食べられ、かなり被害が出ていると漁業関係者から聞いている。

何か方策を検討していれば説明してもらいたい。

(答弁)

本来、瀬戸内海には存在しないナルトビエイというもので、本市もアサリの養殖実験を行っているため、非常に問題視している。

エイの専門駆除業者はいないので、現在、姫路市漁業協同組合と駆除方法等を検討している段階である。

駆除の道筋ができれば予算化を検討したい。

(質問)

新美化センターの施設について、エコパークあぼし

のように地域の人が利用できる温浴施設やトレーニングジム等の計画はあるのか。

(答弁)

エコパークあぼしを好事例と考えているが、まず場所が決定してから検討することになる。

選定地のニーズや特性に合わせて、様々な視点から地域が豊かになり、市の拠点になるような施設を検討したい。

農林水産環境局終了

11時44分

【予算決算委員会経済観光分科会（農林水産環境局）の審査】

【予算決算委員会経済観光分科会（農業委員会事務局）の審査】

農業委員会事務局

13時17分

質問

13時17分

質問なし

農業委員会事務局終了

13時18分

協議事項

13時18分

(1) 行政視察について

・9月19日の委員会において日程調整することに決定。

散会

13時20分